



上海菱威深信息技术有限公司
董事・総経理 田代浩司氏



経歴—1971年東京都生まれ。成蹊大学経済学部卒業。1994年三菱商事入社。情報システム部門配属。96年からERPコンサルティング事業の開発に従事し、最大手食品メーカーや大手化学メーカーなどを手掛ける。01年中国のWTO加盟に伴い、システムインテグレーション・ITベンチャー投資・コンサルティング分野における事業立上げのため、02年3月上海へ。以降、三菱商事G100%出資の現地法人上海菱威深信息技术(有)(アイビジョン)を03年5月に立ち上げ、現在に至る。

新提案！ 中国子会社の内部統制実現 の連結会計ソリューション

海外居住・勤務を楽しみつつ事業拡大へ邁進

総経理は30代半ば。
当初、2〜3名でスタートした同社も5年目を迎え、スタッフは170名余りまで増加し、急成長で活況の社内において、「若きリーダー」と言える「堂々振り」は、板に着いたものである。

現地採用社員の70%は日本語を、20%が英語を操る高級人材によるITを用いたシステムインテグレーションサービスを中核事業とする頭脳集団だが、同国人構成の組織とは違い、率いるトップに多少の違和感があってもよさそうだが、それを感じさせない。なぜなのか？

「子供の頃、父が商社で石油の仕事をしていた関係で、メキシコで6年、ベネズエラで4年、生活しました。子供の頃の海外生活が長かった事もあり、外国人と一緒に日常生活の毎日に、全く抵抗を感じません。現在、中国で生活や仕事をしていまして、ここは多民族国家・国際都市という割り切りと、『アジア

や世界の中の日本』という立場で考えられる良い機会と考え、それが会社業務遂行の原動力になっていきます」と。最近、駐在員問題のチャイナ・シンドロームとは無縁な人であり、親子2代で真の国際人になれる精神的強さを感じる。

商社既存機能を超え、現在の事業の核を育成

日本の最大手商社が本籍であるが、従来の商社機能である物品売買とは違う情報システム部門から企業人として出発した。しかし、企業内企業とは違う性格を同社は持つ。上海からスタートし、東京・広州支店まで展開した今日までを振り返ってもらえ、

「全てとは言えないまでも、これまでの日系企業は中国人に『考える仕事を与えなかった』。弊社はIT関連のサービス業であり、『人材が全て』です。日系企業がより一層グローバル化し、マーケットの中で勝ち抜いていくためには、真の問題解決と現地人の能力の活用・活性化が必要であり、『グローバル経済にビル

ドインされ成長中の中国』で、それをやり遂げてきたからこそ弊社はここまで来れたのだと思います」と、事業の方向性と人材への考え方が確立され実行されていることが、成長の屋台骨であることが分かる。

勝つため、勝てるための企業支援

05年に小売市場開放政策が拡大されて以降、内需拡大の方向に消費市場は動き、内外資を問わず市場シェアの獲得競争は続く。日系企業も争奪戦に続々参入しているが、そこで勝つための企業支援が、同社システムインテグレーションサービスの生命線である。

「弊社は、ユーザーの期待や課題に応じたITコンサルティングからアプリケーションソフト開発など、一連のシステム・インテグレーション事業を展開しております。顧客課題を解決するコンサルティングファームとしての機能が核となっており、それを支えるのも優秀な人材です」と、人材育成に努めてきた結果が、勝てる企業支援のノウハウ獲得と新規事業を育成する機会を生み出している。

自己実現の手助けをする兄貴格の総経理

短期間に急成長させた手腕の一つに中国語会話の巧みさがあるのかと問うと、「海外生活が長いからと言って、言語能力が高いかと言うとそうでもないです。まして、中国語会話のレベルは高くない。幸いなことは、私が社員と同世代の30代であることだと感じます。丁度、兄貴分という年齢です。一期一会という言葉がありますが、折角、弊社という舞台に出会ったわけです。自己実現のために弊社を生きかしてもらいたい。将来独立したいという希望があればなおのこと、弊社で自己研鑽を積み、それが外部で評価されれば、それが弊社の評価にもなる。その様な気持ちで接するようにしております」

と聞けば、語学力も大事だが、それ以上にリーダーの人格が重要である気がする。